

# 1. 評価結果概要表

作成日 2008年7月11日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270604152
法人名	有限会社 グループホームせいゆう荘
事業所名	有限会社 グループホームせいゆう荘
所在地 (電話番号)	長崎県五島市上崎山町430番地1 (電話) 0959-73-6563

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成20年4月3日	評価確定日	平成20年7月17日

## 【情報提供票より】(平成20年3月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	9/7 人	常勤	7/6人, 非常勤 2/1人, 常勤換算 8.3/6.68人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	1号棟:鉄骨平屋 / 2号棟:木造平屋 造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	900 円		

### (4) 利用者の概要

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低	42 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	聖マリア病院、近藤歯科医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表の親が島外で病気に罹った時、島内に対応できる施設がなく、島外の施設で寂しい思いをさせてしまった経験から、自分でホームを設立した。空港から車で10分程の場所にあるホームは、正面には海が見渡せ、裏手は鬼岳を見上げる豊かな自然に囲まれている。ホームの敷地内には利用者が植えられた季節の花が咲き、菜園には利用者や職員で育てている季節の野菜が実っている。また、春にはホーム前に菜の花が一面を飾り、ホームの横には麦が青々と茂り夏が近づくとつれ黄金色の穂が垂れる等、利用者は自然を愛でながら季節を感じ取っている。入居前からの行きつけであった美容院や洋品店を今も利用され、習慣とされていたお寺参りや教会でのお祈り等も行われている。昔馴染みの方と逢って頂くためにも外出して頂くことを職員が心がけ、利用者がホームで『その人らしく』生活が出来るように支援している。本人・家族の希望を常に尋ね、家事・趣味等、利用者の“どうしたい、何を手伝ってほしい”のご希望に添えるよう支援しているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①毎月主任会議を開き迅速に報告・検討し、更に全体会を開催することで其々の責任を踏まえサービスの質の向上に取り組んでいる。②内部研修を実施する事でマニュアルの内容を職員が理解し緊急時の手当てに対応できるようになった。③マニュアルの作成や薬の効用・副作用等の一覧表を作成し内部研修をする事で感染症対策・服薬支援が出来ているが、新規職員には更に勉強会を行い周知徹底を行っている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員に自己評価票を渡し記入してもらい、項目によっては管理者が代表に確認しながら1つにまとめた。職員に自己評価を記入させることで評価の意義を理解してもらいつつ、自分達のケアの振り返りにつなげている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>町内会長より「地域の行事にも積極的に参加し、ホームの行事に老人会・婦人会等にも声かけすると、より地域との交流が出来る」等のご意見を頂き、町内の体育祭に参加した。消防団長より「利用者の避難等は常にホームで訓練を実施して欲しい」とのご意見に、防火研修を受講した職員中心に2ヶ月に1回の避難訓練を計画する等している。ホームでの行事に家族の参加が少ないことに対して、「食事代を徴収することで家族が来やすくなるのでは」と助言を頂き現在検討中である。</p>
重点項目 ②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>暮らしぶり・健康状態は、毎月の利用者毎の“写真付きお便り”で報告したり、電話報告している。金銭管理について、面会に来られる家族には、金銭帳簿の確認と押印をして頂いている。職員の異動に関しては、新規職員はお便りで紹介している。家族が来訪時に管理者等と20～30分話をされることもあり、出された意見にはその都度対応し、専用の書式に記録を残し、対応策は職員も含めて話し合い、運営に活かしている。</p>
重点項目 ③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>小学校や町内の運動会では席を設けて頂き、中学校で催された能の見学や町内の敬老会にも参加している。小学生の職場体験や中学生のボランティアを受入れ、地域の方もフラダンス・三味線等のボランティアに来られる。五島アイアンマン(トライアスロン大会)や夕焼けマラソンではホーム前の道路がコースになっており、利用者も道端に出て町内の方達と選手の応援をしている。町内の総会や清掃に職員が参加し、地区の草払いに男性職員が参加して頂く喜ばれ、「来年もお願いします」と言われる等、積極的に地域と関わりを持つことに努めている。</p>
重点項目 ④	

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「互いに癒し、癒されながら、その人らしく、穏やかに」という理念には、利用者がホームの中だけにとどまらず地域の方とも交流し、利用者個人の主張に合わせ臨機応変にケアを行い、利用者に穏やかに過ごして頂きたいという思いが込められている。“見えない障害に対する見えないケア”を大切にし、利用者が口に出さずともその方の希望に叶うケアを心がけている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	代表が職員採用時に理念を説明し個人面談で話したりすることで、職員も理念に添ったケアを実践するよう気に留めているが、この1年は職員の入れ替り等に伴い体制を整えている段階で業務に追われてしまうことがある。	○	毎月の定例会や日々の申し送りの時等、職員の言動を振り返ることで理念に添ったケアが実践できるのではないかとと思われる。振り返る機会や方法等を職員と話し合う機会をより多く作っていかれることを期待していきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校や町内の運動会では席を設けて頂き、中学校で催された能の見学や町内の敬老会にも参加している。小学生の職場体験や中学生のボランティアを受け入れ、五島アイアンマン(トライアスロン大会)や夕焼けマラソンではホーム前の道路がコースになっており、利用者も道端に出て町内の方達と選手の応援をしている。町内の総会や清掃に職員が参加し、地区の草払いに男性職員が参加し、とても喜ばれ、「来年もお願いします」と言われる等、積極的に地域と関わりを持つことに努めている。	○	代表は、「地区の老人会に参加し、更に交流を深めたい」という思いがあり、会長等の役員に働きかける事から取り組みたいと考えている。推進会議に参加されている町内会長や婦人会役員等を通じて、まずは老人会の役員をされている方を教えて頂く等、今後の更なる取り組みに期待していきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に自己評価票を渡し記入してもらい、項目によっては管理者が代表に確認しながら1つにまとめた。職員に自己評価票を記入させることで評価の意義を理解してもらいつつ、自分達のケアの振り返りにつなげている。前回の外部評価を受けて、全職員と改善計画を検討し、緊急時の手当て・感染症対策・健康診断の支援等について研修を行ったり、マニュアルを作成することで改善しているが、個別の栄養管理や介護計画の見直しは改善中である。	○	代表は「おいで」という言葉を“良い言葉”と思い使用している職員に「言葉と口調に気を付け利用者の反応を見て考えるようになって欲しい」と指導している。自己評価の項目毎の内容を理解できれば、更にプロとしての自覚を持ったケアが出来ると考えられている。項目毎の内容の理解を深め、評価がより有意義となるような取り組みに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域からの入居が少なく地域代表になって頂く方の選定に苦勞しているが、地域代表者や市職員に参加頂きながら、概ね3ヶ月に1回の割合で会議を開催している。町内会長より「地域の行事に積極的に参加し、ホームの行事に老人会・婦人会等にも声かけするとより地域との交流が出来る」等のご意見を頂き、町内の体育祭に参加した。また、消防団長より「利用者の避難訓練の回数を増やしては」のご意見に、防火研修を受講した職員を中心に避難訓練を計画する等し、会議に参加された地域代表の意見等を参考にしている。	○	地域の方の仕事等の都合もあり20時からの開催という事で、開催時間が遅いため利用者の参加が実現できていない。会議開催時間を早くすることは、困難な状況であることから、事前に利用者から意見を伺い、利用者の意見が会議に反映できるような取り組みの工夫を期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が、更新申請等で市役所の介護保険係を訪問し、ホームの課題について相談することがある。市の担当者が書籍を調べられたり、上司に相談されているが、解決策等が見つからない場合もあり、ホームとしては、“手を煩わせてはいけない”と市に相談することを躊躇している部分もあり、積極的に情報提供を行っているとは言いがたい。	○	個人情報保護について家族と相談しながら、ホームの行事の様子を記載した季刊誌等を市窓口へお持ちする。また、市の窓口に行き来する機会を作り、ホームの活動内容等の情報提供をすると共に、ホームの課題を知って頂き共に解決に向けて取り組み等、市の担当者と共にサービスの質の向上に取り組んでいかれることを期待していきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	暮らしぶり・健康状態は毎月の利用者毎の“写真付きお便り”で報告し、状態に変化があった時等は電話で報告している。金銭管理について、面会に来られる家族には金銭帳簿の確認と押印をして頂き、遠方等の事情で面会が難しい家族は家族の了解のもと、来訪時にまとめて見て頂いている。職員の異動に関しては、新規職員はお便りで紹介しているが、退職された職員については敢えて報告せず尋ねられた場合に報告している。	○	管理者だけでなく利用者の担当者が暮らしぶり等をこまめに報告するようにしたいと考えられている。個々に合わせた報告の方法等を検討し、家族の知りたいことをこまめに報告が出来るような取り組みに期待していきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪時に管理者等と20～30分話をされることもあり、その中で家族の意見や利用者の思いを代弁して伝えて下さる時がある。出された意見にはその都度対応し、専用の書式に記録を残し改善に努めている。苦情箱を設置し、入居時には市や国保連の相談窓口にも意見・苦情を申し出る事が出来る旨を説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代表は各ユニットの職員数によっては異動もあり得るが、基本的に職員の異動や利用者の居室変更は行わない事としている。子育て中の職員も多く、代表が職員と面接をし、個人的事情等を把握した上で勤務調整はできるだけ個人の希望を取り入れるよう努め、調理専門の職員も配置している。職員の食事会や親睦会の場を設け、職員のストレス解消を図っている。職員交代があった時は、利用者の状況やその時の心情に合わせて説明の仕方を変える等し、利用者のダメージの軽減に努めている。	○	利用者・家族に管理者や職員の交代があったことで、精神的なダメージを与えてしまったこともあり、チームワークを良くし、職員の結束を強固なものとする為に、職員親睦を兼ねた慰安旅行を予定している。更なる今後の取り組みに期待していきたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表は、職員の向上心をサポートする考えがあり、資格取得を考える職員には外部研修受講のために、勤務を調整したり、通信等により受けられる方法はないか調べている。県・市町村や事業者主催の研修会に管理者や介護支援専門員が参加し、内部研修も行っているが、伝達研修が中断し資料の閲覧のみになっている。外部研修は出勤扱いで旅費・受講費はホームが負担し、資格取得の為に勤務調整等している。事業所全体の研修計画は作成しているが、職員毎のレベルに応じた育成計画は作成していない。	○	1日の流れや注意事項、利用者状況等を申し送る事で経験が浅い職員も経験豊富な職員に近づけるよう朝のミーティングを取り入れた。職員の経験・習熟度に応じた個別の目標を設定し、職員毎の育成計画を立て、更に、中断している伝達研修を毎月の定例会の中で実施しようと考えられている。内部研修を充実させる等、今後の取り組みに期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表は同業者との交流の必要性を認識し、五島市グループホーム協議会の研修や事例検討等に参加しているが、2・3ヶ月に1回の開催である為、更に積極的に交流したいと考えている。新規採用者が他ホームに1日見学に行ったり、代表も相談や情報交換に行く等している。	○	代表は同業者との交流回数や内容を更に充実したいと考えており、職員を他ホームに勉強に行かせる事を検討中である。管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者が、利用開始前に自宅や入院先を訪問し、顔馴染みの関係を作っている。サービス開始前から行きつけのお店や散歩コースにお連れしたり、気の合う利用者と一緒に過ごして頂くことで、ホームに馴染んで頂くように取り組んでいる。夕方になると落ち着かなくなったり帰宅を希望される方は、職員が付添いご本人が納得するまで散歩して頂いている。自宅まで行くことで納得して頂いたり、時には代表がドライブにお連れし、利用者の話を傾聴する等の対応をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が遅くまで仕事をしていたり早朝仕事に入ると、利用者がさり気なくお茶を入れて下さったり、職員の子どもが病気を罹った時に「頑張るなさい」と励まして下さる等、職員は利用者には支えられる事も多い。利用者には積極的に料理の方法や掃除の仕方等を尋ね、細かく指導して頂いたり、昔の事や諺を教える等、職員は利用者から学ぶ事も多いと感じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居に際し、利用者・家族と面談し、利用者がホームでどのように暮し、どう支援して欲しいのかを伺い、本人のできること・できないことの把握もしている。明確に意向を表明されない方にも、生活習慣等を家族からお聞きし、行動・表情からその背景を探り、利用者と共に行動したり新たな問いかけ等する事で思いの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	新任の計画作成担当者が、新たに利用者主体の介護計画を作成している最中である。課題・目標が介護者の視点になっている方や、『地域で暮らす』という視点が盛り込まれていない方がおられる。計画を作成する過程において協力医療機関の医師の助言は得ているが、家族や職員からの意見・気づきが出ることは少なく、計画に充分反映できているとは言い難い。	○	利用者が地域へ出て行かれる事だけでなく地域の方がホームに来られ付き合いが出来ていること等も計画に盛り込んでいき、利用者毎に行われているケアを具体的に記載する事で家族や職員からも意見・気づきが出やすくなると思われる。今後の取り組みに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新任の計画作成担当者が、利用者の状況把握を行い、新たに導入したソフトを活用して、介護計画の作成に取り掛かったところである。介護計画の見直しについては、まだ充分に行えていない状況である。	○	ソフトの有効活用と合わせて、お一人お一人の利用者の状況把握を日々職員が行いながら、現状に即した介護計画の見直しも、適宜、行われていくことを期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	お正月等の帰宅に際して、着替えの準備や服薬の注意書等の準備をしたり、花見や散歩コースの公園、墓参りや利用者の地域の教会にお連れする等、体調等に無理がなければ利用者の希望に合わせて対応している。利用者が入院された時は洗濯物を取りに行く等もしている。利用者の体調に変化が見られたときは、病院に相談したり、入院中は医師や看護師から病状を伺うなど、医療機関との連制も取れている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望で、以前からのかかりつけ医の方と、かかりつけ医が遠方になったことで家族が紹介状を書いて頂き、協力医療機関に変えられた方がいらっしゃるが、どの医師とも相談等しやすい関係にある。通院介助は職員が行い、医師からの状態説明を聞いて頂きたい時等には、家族にも同行して頂いている。受診結果は変化があった場合、職員が家族に電話で直ぐに報告し、変化が無い場合には月1回の便りにて報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対応について、管理者が入居時に説明し、ご本人・家族の意向を把握している。現在、往診の体制が取れていないため、医療行為が発生する場合は、病院にて最善の医療を受けていただく方針にしている。現時点で、終末期の対応が必要な方はおられないが、対応が必要になった場合は、その都度、家族・職員と話し合いを行っていく予定である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護について内部研修を行い、マニュアルを作成し、情報の漏洩防止を行なっている。職員の利用者に対する言葉かけについて、管理者が会議の場で必ず話し、職員も気を付けてはいるが、職員が忙しい時や気を抜いた時に、利用者を「○○ちゃん」と呼びしてしまった時、「おしっこに行かんでよか？」と大きい声でトイレ誘導してしまうことがある。	○	職員は、「○○ちゃん」と呼びしてしまった時も、直ぐに言い直しており、利用者に対する言葉かけも改善されてはいるが、常に目上の方に対する尊敬の念を持って接することができるようにしていきたいと考えている。どのような言葉がプライバシーを損ねるような言葉かけになるのかを、内部研修で取り上げ、日々の現場でも職員同士が互いに注意し合う等、常に意識する為にどうするかを、職員と検討される事を期待していきたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買物やドライブ等に「行きたい」と言われた時は、その日の午後になる事もあるが、希望通り対応している。希望を表さない方には、天候や体調を見てドライブ等に声かけしてお連れしたり、ラジオを聴いて頂いたり、他の利用者が集まっている場に出てきて頂く等している。生活のリズムがとれるよう声かけはしているが、ご本人の気分やペースを尊重しその日を過ごして頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出しや下ごしらえ、調理、下膳、食器洗い・片付け等、利用者も食事作りに参加されている。利用者が育てた大根・山葵菜・春菊・水菜等を調理に取り入れている。わらび・ぜんまい・ツワ等の山菜やアオサ・イカ等の旬の食材を採り入れている。五島うどん・五島三菜等の郷土料理を作り、美味しいと評判のお店で外食したりすることもある。花見等の時にはミキサー食や刻み食もお弁当に持って行き、利用者全員が楽しめるように取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お湯は毎日入れ、時間帯も決めていない。一方のユニットは最低週に3回は入って頂くようにし、他方のユニットは利用者毎に曜日を決めているが、希望により毎日の入浴も可能で、利用者の希望に対応できている。同性介助や個室等で利用者の羞恥心にも配慮している。入浴時間も体調に無理のない範囲で好みに合わせ、入浴を嫌がられる方は暗くなって誘ったり、「たっぷりお湯が入って気持ちがいいですよ」と声かけする事で気持ちよく入浴して頂いている。菖蒲湯・ゆず湯を採り入れたり、温泉に行く等もしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意の縫い物で小物入れ等を作ったり、花壇の花植えや手入れ、音楽鑑賞やカラオケを歌ったり、買物やドライブ、皆さんの思い出話等を楽しみごととされている。洗濯物をたたみ名前ごとに振り分けられたり、お寺参りや教会でのお祈り、ラジオ体操や歩行訓練、新聞取り、盆栽いじり等、利用者ごとに役割を持って頂いているが、男性の利用者の中に、まだ役割等を持って頂いていない方がいらっしゃる。	○	まだ役割等を持って頂いていない利用者にも、生活歴や趣味を踏まえて、役割や楽しみごとを持って頂けるように働きかけていきたいと考えられている。利用者同士の何気ない会話等、あらゆる情報から役割や楽しみごとを持って頂けるよう、今後の取り組みに期待していきたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事での外出や近隣の散歩等、利用者が外出を好まない場合を除き頻りに外出して頂いている。入居前からの行きつけであった美容院や洋品店を今も利用され、習慣とされていたお寺参りや教会でのお祈り等も行われている。昔馴染みの方と逢って頂くためにも外出して頂くことを心がけ、利用者の希望に添った外出や気分転換・五感刺激の為の外出を積極的に行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の防犯上の施錠以外は鍵はかけておらず、利用者が自由に出入りできる様になっている。代表が“利用者に背中を向けると事故の原因になるので、背中を向けずに正面を向くことを常に頭に入れて行動すること”を伝えており、職員も作業する場所や立つ向きを工夫したり、利用者毎の落ち着かれなくなる時間帯等を把握し、声をかけあったりする等で鍵をかけないケアを実践している。利用者が1人で出られた時には、職員が後ろから付いて行くことで対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定しての訓練を年に2回実施しており、消防署や防災業者も立会い、色々なご意見を頂いている。運営推進会議でも訓練の様子を見て頂き、地域代表や市職員からも助言等を頂いている。近隣のお宅や消防団へ災害時の協力依頼もしているが、災害に備えた備品等は特に準備していない。	○	20年度は職員が消防学校の研修で学んだ事を活かして、職員と利用者だけの避難訓練等を数回実施する予定である。台風等に備えて飲料水を確保することを考えており、乾麺・スバゲティ等を災害時の食料として準備したいと考えられている。会議や運営推進会議の議題に挙げ、どのような物をどの程度、あらかじめ準備しておけばよいかを検討されることを期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師が書籍等を参考におおよそのカロリーを計算しながらメニューを考え、疾病や好みに応じて味付けや調理方法を変えたり、食材を変える等している。食事量・飲水量ともに記録し、食が進まない方には時間をずらして食べて頂いたり食形態を変更する等し、飲水を嫌がられる方には好みの飲み物を選んで頂いたりすることで摂取して頂けるように工夫している。	○	職員の知人に栄養士がおられるということなので、個人毎の必要摂取エネルギーに合わせた食事の提供ができていないか、メニュー表の確認等をお願いしてみたいか。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾り、居間にはソファやテレビを置いて利用者が集まって皆で会話ができるようにしている。陽の光はカーテンやブラインドで調整し、音の大きさ等も随時調整している。各居室・居間に加湿器を置き、空気清浄機や換気扇を使用することで空気の流れや換気を調整している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、居室にはテレビやダンス、テーブル、冷蔵庫、位牌等を持ってきて頂いている。使い慣れた物や思い出の品々を持ってきて頂き、好きな時に家族に連絡が取れるように電話を引かれている利用者もいらっしゃる。希望があれば居室の様式替えも可能で、花や写真等も自由に飾って頂き、ご本人が居心地よく過ごせるようにして頂いている。		